

福岡地方連合 7/31～8/7（遠野 8/1～8/6）

福岡地方連合第1回派遣チーム（3名）

リーダー：原田寛牧師（福岡教会：連合災害対策窓口）

高地京子牧師（粕屋教会）松藤真理奈（福岡西部バプテスト教会）。

『被災地を訪れて』

福岡西部バプテスト教会 松藤真理奈

「神さまは今なにをしようと？」～3/11以降「ふくおか」より～



「神さまは今なにをしようと？」「ねえ、神さまって、どこにおると？」「私は神さまやないから、答えられんとよ。本当の事は神さましか知らんけんね。でもきっとたくさんの生命と一緒におられるはずだよ。」「神さまはなんでも知っとるんやろ。なんでこんな悲しい事するん。。。」「

福岡の子どもたちの声です。そんな中、テレビや新聞の写真の四角い画面の中で見聞きして来た被災地の現状をどうしても自分の足で立ち、自分の目で見、確かめたいという願いを持つよ

うになりました。ずっと、「自分みたいな無力な者が被災地に行ってもどうしようもない」そう思って、何も出来ない自分を責めて過ごして来た5か月間から立ち上がり、既に被災地に行ってきた方々の「何もいらん。まず行って見てこい」という言葉に後押しされて東北をめざしました。

「瓦礫拾い??」～8/2～

ボランティアセンター「まごころネット」を通じて、釜石市根浜地区付近の「瓦礫拾い」をしました。大きなブロックの下に小学校の国語の教科書や、車の窓枠。その横に屋根の瓦や子どもの靴下。学校の参考書。鍋。その一面に大釘やガラスが散乱している。。。どこに「瓦礫（ガレキ）」があるのか、自分が拾っているのは、どれも大切な生きた生活のカケラばかり、「瓦礫なんか無いじゃんか。」そんな気持ちにさせられました。



「避難所／仮設」～8/3. 8/5～

大槌町の避難所／仮設住宅で「なごみカフェ」「物品渡し」の作業を手伝いました。

ちょうど、避難所の閉鎖と仮設への引っ越しの時期でした。カフェでゆっくりされる方がある一方、さっと来て、去って行かれる方。なかなか近づいてこない中学生くらいの子。笑顔で遊びにくる小学生の子どもたち。しかし、聞こえてくるお話の一つ一つに言葉も無く、会話の中で自分がどんな顔で応えたのかさえわかりません。ただ、おばあちゃんたちの中には優しく、私の方をみて、遠くから来るボランティアの私のような者のために、時間を作って、私がそばに寄りそい、一緒にすごすのを待っていてくださる感じの方が何人もおられました。忘れられません。



ここで、福岡西部教会の姉から託かった手編みの「アクリルたわし」50個を配るが出来ました。仮設住宅の方々に「懐かしい。これしってるよ」と喜んでいただけました。

「帰り道」～8/6～

帰り道、長い車での移動の中、とにかく被災地から福岡があまりにも「遠すぎる」という思いがして、思わず涙しそうになりました。



被災地の方々はどこにも当てる事の出来ない疲れを抱えておられます。「また来てね」の言葉が、耳に残ります。今、一番必要なのは、遠すぎる福岡の地から「忘れたりするもんか」と、思いっきり手を伸ばす事。被災地からでなく、私たちの方から手を伸ばし続ける事であると思います。もういい、というほど、被災地の方は手を伸ばしがんばり続けて来られました。これからは、私たちが手を伸ばし続けてがんばる番。祈り、あらゆる方向で「連

繋となる」あり方を持ち続けて行きたいと考えています。